

【 国 語 】 内容および観点別の分析

観点	国語への関心・意欲・態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・能力
課題	・進んで読書するが、発表や難語を調べる意欲に課題がある。	・伝えたいことを整理して話す、集中して話を聞くことに課題がある。	・文を構成する力に課題がある。	・文の内容を正確に理解し読み解く力が不十分である。	・漢字の習熟に差があること、語彙をもっと増やすことに課題がある。
考察	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲をもって取り組むことができる。 ・しっかりした姿勢を保てず、最後まで集中して話を聞くことが苦手な児童がやや多い。 ・場にあった声の大きさはまだ定着しているとは言えない。 ・伝えたいことを順序立てて話したり、書いたりすることが苦手。 ・ひらがなやカタカナ、漢字を正しく読んだり、書いたりすることについて個人差が大きい。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文の組み立てを考えて文章を書くことが難しい。 ・聞く姿勢や態度は身につけてきているが、大切なことを考えながら聞くことは難しい。 ・音読・漢字の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、既習の漢字を活用することが苦手である。 ・事実の読み取りは得意だが、文章が長くなり、気持ちを類推することに苦手意識がある。 ・人物の気持ちを読み取ることはできるが、文章の表現の豊かさを感じ取ることが難しい。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に意欲をもって取り組むことができる。自分の考えを進んで発表する意欲が不十分である。 ・話を聞く態度が育ちつつある。話の中心をとらえて内容を的確に伝える力が不十分である。 ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを表現し、文を構成して書く力が不十分である。 ・要旨や課題をとらえたり、筆者の考えを理解したりする力が伸びつつある。 ・個人によって漢字力に差がある。語彙不足。家庭学習の習慣の定着にも差がある。 			
改善策	低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く能力を高めるために、話を聞く姿勢(体を向ける・目を見る)や態度の指導を徹底していく。 ・声のものさし(場にあった声の大きさを表にしたもの)の表を活用する。 ・音読の練習を年間を通じて家庭学習などで取り組む。 ・ペアや少人数などのグループでの話し合いの機会を意図的に多くする。 ・スピーチの活動を取り入れ、接続語を適切に使いながら、順序だてて話すことを意識させる。 ・視写や文章を書く課題を取り入れ、書く習慣を身に付ける。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 			
	中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・文の組み立てメモなどを使用し、書く内容をはっきりさせるようにする。 ・話を聞く機会を多く設け、要点をメモしたり、確認したりする練習の場を設ける。 ・音読の練習を年間を通じて家庭学習などで取り組む。学級やグループでの音読や群読などの機会を設ける。 ・文章の読み取りのポイント(文章の言葉や表現、接続詞等)を明確に指導する。 ・さまざまな文章に親しむ機会を設け、豊かな表現に触れる機会を設ける。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 			
	高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・辞書を活用したり、新聞を読んだりして文字や文に多く触れさせ、要旨を読み取る力を付けさせる。 ・ペア、グループ等の話し合い活動を工夫し、スピーチや人前で発表する場面をできるだけ多く取り入れる。 ・言葉遣いを意識させ、時と場面に応じた話し方のスキルを身に付けさせ、体験を通して経験を積ませる。 ・家庭学習で文を書かせたり、作文指導や感想文の時間をより大切に指導したりする。 ・家庭学習を習慣付け、日々の学習での定着や小テストなどを通して、漢字の読み書きの習熟を図る。 ・言葉遊びや音読、読書などを通していろいろな言葉に触れ、語彙を増やす。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を夏季・冬季の補習学習時や朝学習(ぐんぐんタイム)時に活用し、漢字の読み書き等の習熟を図る。 			

【 社会 】 内容および観点別の分析

観点	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能・表現	社会的事象についての知識・理解
課題	・体験、調べ学習は意欲的に学習に取り組んでいるが、日常生活の中では、経験・体験不足から社会的事象の関心はやや不十分である。	・社会的な背景を読み取りながら、事象について考えることがおおむねできているが、関連付けて深く考えることがやや不十分である。	・資料を比較し、読み取ったり、考察したりする力がやや不十分である。	・事象に関わる言葉の意味も含めた習得がやや不十分のため、知識・理解として定着していない部分が見られる。
考察	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるにつれ、学習内容が身近なものから外へ広がるため、興味・関心については、個人差が大きい。 ・体験学習に意欲的に取り組んでいる。 ・物事を多角的に見る視点がやや不足している。 ・市や都道府県の地理的感覚がやや不足している。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞やニュースを見ていない児童が多く、社会的事象に対する関心がやや不十分である。 ・グラフや写真などの資料から、必要なものを調べることは出来るが、そこから社会的な見方や判断をしていくことは、個人によって差がある。 ・資料から見付けたことや複数の社会的事象を比較・関連付けて思考する力がやや不足している。 ・都道府県や国の地理的感覚がやや不足している。 			
改善策	<p>中学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な例を取り上げ、導入で関心を引くように工夫する。 ・体験的な活動を多く取り入れ、社会への興味・関心を引く。 ・簡単な資料を提示して、資料から事実を読み取り、わかったこと・考えたことをまとめる活動に取り組みさせる。 ・主体的に考える学習を多く取り入れる。(問題解決型の能動的学習) ・地図帳を活用し、地理的感覚を方角やまちの様子、地形の特徴などからより豊かにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を単元終了後に活用し、地図記号等の習熟を図る。 			
	<p>高学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事やニュースを学習で扱い、社会に目を向けさせる工夫をする。 ・グラフや表を読み取る学習や資料を活用する学習を適宜取り入れ、事象を読み取り、考えるおもしろさを味わわせる。 ・既習事項をもとに、学習問題をつくり、予想を立て、調べまとめる学習を多く取り入れながら、みんなで協力して解決していく活動を取り入れながら、より思考・判断が深められる学習展開につなげる。 ・社会的な事象と自分の生活と結び付けながら学習を進めることで、社会的事象についての関心を高めていけるようにする。 ・主体的に考える学習を多く取り入れる。(問題解決型の能動的学習) ・地図帳や地球儀を活用し、地理的感覚を気候の様子や国の位置関係などからより豊かにさせる。 ・「東京都ベーシック・ドリル」及び「アプリ版東京ベーシック・ドリル」を単元終了後に活用し、都道府県名や国名等の習熟を図る。 			